

## New Horizon 第20回 Lessons

### Lesson 20-1 : be 動詞の過去形 否定文 & 疑問文

Lesson 9 で学んだ通り be 動詞（現在形）の肯定文を過去形にするには、am / is の代わりに was、are の代わりに were を使えば OK でした。

<例> I am a teacher. (私は先生です)  
→ I was a teacher. (私は先生でした)

She is in her room. (彼女は彼女の部屋にいます)  
→ She was in her room. (彼女は彼女の部屋にいました)

They are my students. (彼らは私の生徒たちです)  
→ They were my students. (彼らは私の生徒たちでした)

今回は、この be 動詞（過去形）の肯定文を否定文と疑問文にするやり方を学んでいきます。

#### <be 動詞（過去形）否定文>

否定文の作り方は、非常に簡単。なぜなら、現在形の時同様、肯定文を作り、be 動詞の後に not を足してあげれば完成となるからです。つまり、was / were のところを was not (wasn't) / were not (weren't) にすれば完成です。

<例> I was a teacher. (私は先生でした)  
→ I was not (wasn't) a teacher. (私は先生ではありませんでした)

She was in her room. (彼女は彼女の部屋にいました)  
→ She was not (wasn't) in her room. (彼女は彼女の部屋にいませんでした)

They were my students. (彼らは私の生徒たちでした)  
→ They were not (weren't) my students. (彼らは私の生徒たちではありませんでした)

#### <be 動詞（過去形）疑問文>

そして、疑問文を作る場合も、非常に簡単。なぜなら、現在形の時同様、肯定文を作り、先頭に be 動詞を持ってきてあげれば完成となるからです。また、答える時は、現在形の時同様、“Yes, 代名詞 be 動詞.” “No, 代名詞 be 動詞 not (be 動詞と not の短縮形も可).” となります。

<例> You were a teacher. (あなたは先生でした)  
→ Were you a teacher? (あなたは先生だったのですか)  
⇒ Yes, I was. / No, I was not (wasn't).

She was in her room. (彼女は彼女の部屋にいました)  
→ Was she in her room? (彼女は彼女の部屋にいたのですか)

⇒ Yes, she was. / No, she was not (wasn't).

They were your students. (彼らはあなたの生徒たちでした)

→ Were they your students? (彼らはあなたの生徒たちだったのですか)

⇒ Yes, they were. / No, they were not (weren't).

疑問詞がつく場合も、疑問文の前に疑問詞を足してあげれば完成となります(ただし、主語を訪ねる What / Who のような疑問文の場合は、疑問詞を主語とした肯定文の形になるので注意)。

<例> Why were you a teacher? (なぜ、あなたは先生だったのですか)

Where was she? (彼女はどこにいたのですか)

What was on the table? (何がテーブルの上に乗っていたのですか) <主語を尋ねる疑問文>

## Lesson 20-2 : 様々なフレーズ②

### 1. at first = 最初 (は)

<例> At first, he was short, but now he is tall.

<最初、彼は背が低かったですが、今は背が高いです>

#### 【補足説明】

at first は「最初は、～。次に～」という順番を説明するものではなく「最初は～だったけど、今は違う」という文脈で主に使われる。また、文の最初ので At first, ~. の形でよく使われる。

### 2. I hope so. = 私はそれを望む / 私はそう望んでいる / だといいいね

<例> A: Will he come to the soccer game? B: I hope so.

<A: 彼はサッカーの試合に来るつもりですか。 B: 私はそれを望んでいます>

#### 【補足説明】

I hope so. だけでなく、I think so. (私はそう思います) という表現もよく使われる。I think so. の否定形は、I don't think so. (私はそうは思わないです) なのだが、I hope so. の否定形は、I hope not. (私はそうでないことを望む / じゃないといいいけど) となるので注意。

<例> A: Will you be busy tomorrow? B: I think so.

<A: あなたは明日忙しいでしょうか。 B: 私はそう思います>

A: Can he speak Chinese? B: I don't think so.

<A: 彼は中国語を話せるのですか。 B: 私はそうは思いません>

A: Do we need to do this today? B: I hope not.

<A: 私たちはこれを今日する必要があるのですか。 B: じゃないといいいけど>

### 3. another = もうひとつの / もう一人の / 別の

<例> I need another pen. <私はもう1本別のペンが必要です>

#### 〔補足説明〕

別のものが1つの場合は、another だが、複数の場合は other (別の / 他の) が使われる。つまり “another + 単数” “other + 複数” となる (「1 つの other = an other」なので another は、1つと覚えるとよい)。

<例> We can go to another store. (私たちは、別のお店に行きます (1店舗を想定))

We can go to other stores. (私たちは、別のお店に行きます (複数のお店を想定))

「他の不可算名詞」と言う場合は other が使われ “other + 不可算名詞” の形になる。

<例> I want to try other food. (私は、他の食べ物も試したいです)

### 4. against ~ = ~に対抗して / ~に反対して

<例> Are you against me? <あなたは、私に反対なのですか>

#### 〔補足説明〕

スポーツの試合などで「〇〇と対戦する」という場合、play against 〇〇 となる。

<例> We played against them. <私たちは、彼らと対戦しました>

## Lesson 20-3 : いる・ある 肯定文

今回学ぶのは「私の授業には 30 人の生徒がいる」「古いカメラがテーブルの上にある」といった「いる・ある」を表す文についてです。基本の形は以下の通りです。

There + be 動詞 + ~.

#### 【注意点】

1. ここで登場する there は「そこ・あそこ」という意味ではない。
2. be 動詞は「時制 (現在・過去)」「単数 / 不可算名詞」「複数」で使い分ける。  
「現在・単数/不可算 = is」「現在・複数 = are」  
「過去・単数/不可算 = was」「過去・複数 = are」

<例> There is an old camera on the table. (古いカメラがテーブルの上にあります)  
There are 30 students in my class. (私の授業には、30名の生徒がいます)  
There are some people in the library. (図書館の中に、何名かの人がいます)  
There was a lot of water in the bottle. (たくさんの水がボトルに入っていました)  
There was a bookstore near the station. (駅の近くに本屋がありました)  
There were two TVs in the room. (2台のテレビが部屋にありました)

### 【作り方】

ステップ1: 「ある・いる」の部分のをぞいて「名詞+場所」の文を作る。

ステップ2: 「時勢」「単数・複数・不可算」を確認し、there + be 動詞 の形を文頭に足す。

#### <例1: 古いカメラがテーブルの上にあります>

ステップ1: 「ある・いる」の部分のをぞいて「名詞+場所」の文を作る。

→ 「古いカメラ + テーブルの上にある」

an old camera on the table

ステップ2: 「時制」「単数・複数・不可算」を確認し、there + be 動詞 の形を文頭に足す。

→ 「古いカメラがある」 = 「現在」「単数」

There is an old camera on the table.

#### <例2: たくさんの水がボトルに入っていました>

ステップ1: 「ある・いる」の部分のをぞいて「名詞+場所」の文を作る。

→ 「たくさんの水 + ボトルの中」

a lot of water in the bottle

ステップ2: 「時制」「単数・複数・不可算」を確認し、there + be 動詞 の形を文頭に足す。

→ 「水があった」 = 「過去」「不可算」

There was a lot of water in the bottle.

### 【ポイント】

#### 1. A and B と複数がある場合は、There are/were A and B の形

例えば「1匹の犬と1匹の猫」がいると言いたい場合、基本的に There are ~. の形が使われます。そのため、**There are a dog and a cat ~.** となります。しかし、会話などの「くだけた場」では、There is ~. が用いられることもあります。

<例> There are a dog and a cat in the room. (部屋に1匹の犬と1匹の猫がいます)

#### 2. 主にスピーキングの際に使われる There is の短縮形 = There's

短縮形は、主にスピーキングで使われる(そのため、ライティングでは基本的に短縮形は使わない)が There is は、There's と短縮されることが多いです。しかし、There are を There're と短縮させることはあまりないです。その理由は定かではないですが「発音しづらいから」というのが考えられます。また、There was/There were の短縮形も基本的に存在しません(しかし、スピーキングの際は、速すぎて短縮されているように聞こえる時もあります)。

<例> There is (There's) some food on the table. (テーブルの上にくらか食べ物があります)

## 《There + be 動詞 の特徴》

「○○が△△にある（例：There is ○○ on △△.）」という表現をしっかりと理解するには2つのポイントをおさえておく必要があります。

- (1) ○○の部分には不特定の名詞が入る
- (2) △△の部分には特定されている名詞 (the + 名詞 / 所有格 + 名詞など) が入る

### 《説明 1: 「○○の部分には不特定の名詞が入る」について》

今回の練習で登場する“**There + be動詞**”は、基本的に

話し手の間で新しい情報を提供するときに使われる表現  
(モノや人を新しく紹介するとき・新しく発見した時に使われる表現)

となります。そのため **There is a ~ .** や **There are some ~ .** といった、名詞を特定しない形がよく使われます。例えば「一人の生徒がいる（生徒が一人いることを今初めて知った）= **There is a student.**」「何本かペンがある（何本かペンがあることを今初めて知った）**There are some pens.**」といった形です。違う言葉で言えば、この **There + be 動詞** の形では、

基本的に「固有名詞」「代名詞」「**the** や**所有格**がつく名詞」が「ある」という言い方はしない

ということです。では「固有名詞」「**the** や**所有格**がつく名詞」が「ある」と言いたい場合はどうするのか？それは、

**There + be 動詞** の形ではなく、  
その**固有名詞**、**the** や**所有格**がつく名詞を主語にして文を作ります。

- <例> Taro is in my room. = ○      There is Taro in my room. = ×  
(タロウは私の部屋にいます)
- She is in her office. = ○      There is she in her office. = ×  
(彼女は彼女のオフィスにいます)
- My school is in Osaka. = ○      There is my school in Osaka. = ×  
(私の学校は大阪にあります)

### 《説明 2: 「△△の部分には特定されている名詞 (the + 名詞など) が入る」について》

そして「○○が△△にある（例：There is ○○ on △△.）」という表現の△△の部分には、特定されている名詞 (**the** + 名詞 / 所有格 + 名詞 / 固有名詞など) が主に入ります。例えば、あなたとあなたの友人の前にテーブルがあり、そのテーブル上にペンがあるとしましょう。そこで、あなたが「ペンがテーブルの上にあります」と英語で言う場合、ペンは今紹介されたものなので **a pen** となるのですが、テーブルに関しては「自分たちの前にあるテーブル」と限定されているので、**the table** となります。そのため、

**There is a pen on the table.**

という文になります。同様に、△△には、場所を特定している固有名詞や所有格のついた名詞も置くことができます。

<例> There was a big poster on the wall. = ○ (on a wall = ×)

(壁に大きなポスターがありました)

《「どの壁」について話しているか限定されているため the wall になる》

There are many good restaurants in Utsunomiya. = ○ (in a city = ×)

(たくさんの良いレストランが宇都宮にはあります)

《「宇都宮」と限定されている》

### 【ポイント！】

#### **There + be 動詞 + ～. の代わりに使える have**

「いる・ある」は There + be 動詞 + ～. の形以外でも have で表すことができます。

例えば「私たちが住んでいる市には、3つの高校がある」という文。この状況を説明する場合、英語では、以下の3つの表現が可能です。

(1) 「私たちの市には3つの高校があります」

→ There are three high schools in our city.

(2) 「私たちの市は3つの高校を持っています」

→ Our city has three high schools.

(3) 「(私たちの市に住んでいる) 私たちは3つの高校を持っています」

→ We have three high schools.

「私たちの市」を「人」のように扱うことや、「私たちの市 = そこに住んでいる人たち = 私たち」と考えることもできるのが英語の特徴です。

## Lesson 20-4 : いる・ある 否定文

「いる・ある」の否定文は、基本的に「be 動詞」の部分に「be 動詞 not」の形にするだけで完成となります。

### 【「いる・ある」の否定文：基本の形】

**There + be 動詞 + not + ～.**

\*be 動詞と not を短縮させた形を使うことも可。

<例> There is not (isn't) a red pen on the desk.

<赤いペンは机の上にはありません>

There are not (aren't) eight desks in the classroom.

<8台の机は教室にありません>

There was not (isn't) water in the bottle.

<ボトルに水は入っていませんでした>

There were not (weren't) new books in the library.

<図書館に新しい本はありませんでした>

### 【作り方】

ステップ1 : There + be 動詞 の肯定文を作る。

ステップ2 : be 動詞の後に not を足す (be 動詞と not の短縮も可)。

<例1：赤いペンはテーブルの上にはありません>

ステップ1：There + be 動詞 の肯定文を作る。

→ 「赤いペンがテーブルの上にあります」

There is a red pen on the table.

ステップ2：be 動詞の後に not を足す (be 動詞と not の短縮も可)。

There is not (isn't) a red pen on the table.

<例2：図書館に新しい本はありませんでした>

ステップ1：There + be 動詞 の肯定文を作る。

→ 「図書館に新しい本がありました」

There were new books in the library.

ステップ2；be 動詞の後に not を足す (be 動詞と not の短縮も可)。

There were not (weren't) new books in the library.

### 【ポイント！】

「全くない・全くなかった」「少しもない・少しもなかった」という場合の any

もうすでに登場している 「全くない・全くなかった」「少しもない・少しもなかった」という意味の any は「いる・ある」の否定文では、よく登場します。any を使う時の注意事項は「可算名詞の時は、be 動詞は are/were で複数形を用いる」「不可算名詞の時は、be 動詞は is/was」を使うということです。

#### 【「全くない」「少しもない」の否定文：基本の形】

**There + are not (aren't) + any + 可算名詞の複数形 + 。**

**There + is not (isn't) + any + 不可算名詞 + 。**

(There + is + not + any + 単数形は、あまり使われない)

<例> There are not (aren't) any red pens on the table. (テーブルの上に赤いペンは全くありません)

There is not (isn't) any milk in the refrigerator. (冷蔵庫に牛乳は全くありませんでした)

#### 【「全くなかった」「少しもなかった」の否定文：基本の形】

**There + were not (weren't) + any + 可算名詞の複数形 + 。**

**There + was not (wasn't) + any + 不可算名詞 + 。**

(There + was + not + any + 単数形は、あまり使われない)

<例> There were not (weren't) any students. (学生は一人もいませんでした)

There was not (wasn't) any food there. (そこに食べ物は全くありませんでした)

## Lesson 20-5 : いる・ある 疑問文

「いる・ある」の疑問文は、「be 動詞」を文頭に持ってくれば完成となります。

### 【「いる・ある」の疑問文：基本の形】

be 動詞 + there + 名詞 + ~?

- <例> Is there a red pen on the table? (赤いペンはテーブルの上にはあるのですか)  
Are there ten desks in the classroom? (10 台の机が教室にはあるのですか)  
Was there food in the box? (箱の中に食べ物がありましたか)  
Were there two TVs in the room? (部屋には2 台のテレビがあったのですか)

### 【作り方】

ステップ 1 : There + be 動詞 の肯定文を作る。

ステップ 2 : be 動詞を文頭に持ってきて、最後を ? にする。

<例 1 : 赤いペンはテーブルの上にはあるのですか>

ステップ 1 : There + be 動詞 の肯定文を作る。

→ 「赤いペンがテーブルの上にあります」

There is a red pen on the table.

ステップ 2 : be 動詞を文頭に持ってきて、最後を ? にする。

Is there a red pen on the table?

<例 2 : 部屋には 2 台のテレビがあったのですか>

ステップ 1 : There + be 動詞 の肯定文を作る。

→ 「部屋には 2 台のテレビがありました」

There were two TVs in the room.

ステップ 2 : be 動詞を文頭に持ってきて、最後を ? にする。

Were there two TVs in the room?

### 【ポイント！】

「いくつか / いくらか / 何か」という意味の any は、よく登場する。

「いる・ある」の疑問文では「いくつか / いくらか / 何か」という意味の any がよく登場します。any は、基本的に “Are (Were) there any 複数形 ~?” か “Is (Was) there any 不可算名詞 ~?” の形で使われます。

<例> Are there any big desks in the classroom? (教室に大きな机は何台かありますか)

Was there any food on the table? (テーブルの上にいくらか食べ物があったのですか)



【疑問文の答え方】

Yes, there be 動詞.

No, there be 動詞 not.

\*be 動詞と not の短縮形を使うのが一般的。

<例 1> Is there a red pen on the table? (赤いペンがテーブルの上にあるのですか)

はい → Yes, there is.      いいえ → No, there isn't. (No, there is not.)

<例 2> Were there two TVs in the room? (部屋には2台のテレビがあったのですか)

はい → Yes, there were.      いいえ → No, there weren't. (No, there were not.)

そして、疑問詞が付く場合は、他の疑問文同様「いる・ある」の疑問文の前に How many ○○ / How much △△ といいた疑問詞を足してあげれば完成となります。

【いる・ある（疑問詞+疑問文）：基本の形】

疑問詞 + be 動詞 + there + ～？

<例> How much money is there in the box?

(箱の中にどれくらいの量のお金があるのですか)

How many students were there in that class?

(何人の生徒があこの学級にはいたのですか)

【作り方】

ステップ1：疑問詞の部分に適当な単語を入れて there + be 動詞の疑問文を作る。

ステップ2：入れた「適当な単語」を疑問詞に戻す。

ステップ3：疑問詞を文頭に持ってくる。

<例：何人の生徒があこの学級にいたのですか>

ステップ1：疑問詞の部分に適当な単語を入れて there + be 動詞の疑問文を作る。

→ 「30 人の生徒があこの学級にいたのですか」

Were there 30 students in that class?

ステップ2：入れた「適当な単語」を「疑問詞」に戻す。

Were there how many students in that class?

ステップ3：疑問詞を文頭に持ってくる。

How many students were there in that class?

## Lesson 20-6 : 様々なフレーズ③⑩

### 1. set up = 配置する / 組み立てる / セットアップする

<例> Can you set up the tent? <テントを組み立ててくれますか>

#### [補足説明]

〇〇が代名詞の場合、set 〇〇 up の形になる。また、代名詞でなくても set 〇〇 up の形が使われることもある。

<例> We need to set it up. <set up it = ×>  
(私たちはそれをセットアップする必要があります)

We need to set the computer up.  
(私たちはパソコンをセットアップする必要があります)

### 2. pick up 〇〇 = 〇〇を拾う / 〇〇を拾い上げる / (車などで) 〇〇を迎えに行く

<例> We need to pick up the trash in the park. <私たちは公園のゴミを拾う必要があります>

#### [補足説明]

〇〇が代名詞の場合、pick 〇〇 up の形になる。また、代名詞でなくても pick 〇〇 up の形が使われることもある。

<例> You need to pick him up at 10:00. (あなたは彼を 10 時に迎えに行く必要があります)

You need to pick the litter up. (あなたはゴミを拾う必要があります)

### 3. go on a trip (to 〇〇) = (〇〇へ) 旅行に行く

<例> We went on a trip to Fukuoka. <私たちは、福岡へ旅行に行きました>

#### [補足説明]

“on a trip” と “to 〇〇” の順番を入れ替えて、go to 〇〇 on a trip という表現も可能だが、訳が「旅行で〇〇に行く」と若干ニュアンスが変わる。また「school trip / field trip (遠足 / 修学旅行)」といったフレーズを用いて、「遠足 (修学旅行) で〇〇に行く」という場合、go to 〇〇 on a field trip ということができる (school trip 以外にも camping trip など △△ trip (△△旅行) という形が使われる)。

<例> We went to the art museum on a field trip. (私たちは、遠足で美術館に行きました)

#### 4. the foot of ○○ = ○○のふもと

<例> We are at the foot of the mountain. <私たちは、山のふもとにいます>

##### [補足説明]

foot は「足（足首から下の部分）」という意味（複数形は feet）。

#### 5. It ~ there. = そこは～。

<例> It was beautiful there. <そこは美しかったです>

##### [補足説明]

「そこは～」なので、There is ~. と言いたくなるところだが、there / here は基本的に「副詞」として使われるため、主語にはならない。そのため、ここでは「漠然とした状況を表す it」が使われている。この it は、主語や目的語として主に使われる。

<例> How's it going? <元気ですか？> it = 主語

（この it は、相手の周りで起きている「状況」を指している。主語が it だが、答える時は  
How are you? に答えるように、I'm good. / I'm fine. など、I'm で答えることができる。）

I like it there. <私は、そこが好きです> it = 目的語

（I like there. とは言えないので、場所の状況を表す it が使われている）